

会 議 録

会議の名称	第3回 杵築市行政改革推進委員会
開催日時	平成27年11月10日（火曜日） 午後12時50分から午後4時00分
開催場所	杵築市役所本庁舎 2階 大会議室
議 題	別紙資料のとおり
記録方法	☐ 全文記録 ☒ 発言者の発言内容ごとの要点記録 ☐ 会議内容の要点記録
会 議 内 容	
議事 （1）補助金等評価 （2）その他	
審 議 内 容	
（総務課長あいさつ） （欠席者報告） 委員2名が都合により欠席。 （委員長あいさつ） （資料説明） （37番木造住宅耐震化促進補助金説明） （継続） （38番就農支援資金償還助成事業補助金） （継続） （39番経営所得安定対策直接支払推進事業費補助金） （継続）	

(40番排水機能向上対策事業補助金)

○委員：排水機能は大事なことから補助自体はいいと思うが、公平性は保たれているのか。言ったもの勝ちか。

○総務課長：声掛けをして、申請があったところに補助を出している。

○委員長：こういう制度が動き出したらそれを周知して公平な事業になるようにしなければならないが、受ける側はそれに対して、申請等をしないと補助はもらえない。要求しないところに予算はつかない。

○総務課長：平等に周知をしても、必要がないところは申請しないので、当然そういうところには補助は出ない。

(継続)

(41番畦畔管理省力化支援補助金)

(継続)

(42番水田有効活用機械リース支援事業費補助金)

(継続)

(43番堆肥化処理施設運営管理補助金)

○委員長：これは指定管理に出しているものですね。本来ならば独自採算でいくはずだが、黒字化できていないから補助金を出している。山香地域における畜産業の排泄物処理と堆肥の安定供給を図るということでつくられたんですね。

○委員：そこがちょっと疑問だ。なぜ山香地域限定なのか。

○委員長：これは合併前からあったもので、合併したからと言ってご破算にできない。

○委員：他の地域にはこういうものはないのか。

○総務課長：ない。

○副委員長：協定書があるようだ。

○委員：27年度までの協定書があるのなら、その期限で、補助金は

切るべきだ。

○委員長：事業効果の検証を行い、必要に応じて見直しを行うということによいか。

（内容見直し）

（44番施設園芸省エネ設備導入支援事業補助金）

（継続）

（45番担い手育成総合支援協議会補助金）

○委員長：これは以前国庫事業だったものが、国庫補助が廃止になっても市単独で続けているわけか。22年度に事業仕分けで廃止されている。

○副委員長：国が廃止した時にやめればよかった。もういらないのではないか。

○委員長：金額面から言ってもこの補助金による事業効果は考えにくい。

（廃止）

（46番肉用牛優良繁殖雌牛保留推進事業補助金）

○副委員長：杵築市としては肉用牛に力を入れたいわけですね。

○委員長：市の方針として力を入れるということなら継続でいいのでは。選択と集中だ。

（継続）

（47番乳用牛保留推進事業補助金）

○委員長：これも同じような方針ですね。

（継続）

（48番稲発酵粗飼料普及推進事業補助金）

（継続）

（49番しいたけ生産新規参入支援事業補助金）

（継続）

（50番ほだ木造成緊急支援事業補助金）

(継続)

(51 番 地域活性化センター農業用機械整備事業補助金)

○委員長：これも指定管理ですよ。

○総務課長：そうだ。堆肥センターと一緒に。

○委員長：それなら運営状況がどうなっているかきちんと把握すること。機械の維持管理に関するものなので、長期保存を促すということで、縮小でよいか。

(縮小)

(52 番 肉用牛大規模経営体育成事業補助金)

(継続)

(53 番 地域育成型就農システム支援事業費補助金)

(継続)

(54 番 間伐促進事業補助金)

(継続)

(55 番 大分の茶産地強化対策事業補助金)

(継続)

(56 番 低コスト簡易作業路緊急整備事業補助金)

(継続)

(57 番 有害鳥獣被害防止対策事業補助金)

(継続)

(58 番 次世代を担う園芸産地整備事業補助金)

(継続)

(59 番 おおいた竹林再生事業補助金)

(継続)

(60 番 公共造林作業路促進事業補助金)

(継続)

(61 番 中山間地域等直接支払事業交付金)

(継続)

(62番環境保全型農業直接支払交付金)

(継続)

(63番杵築市土地改良区補助金)

(64番楠溜池土地改良区補助金)

○委員：この2つは統合できないのか。

○総務課係長：それぞれ財産があり、地域も離れている。規模も運営の方針も違うので難しい。

○委員長：人件費はこんなに要るのか。市の補助率も高い。繰越金もある。市の単独事業でこんなに出していかなければならないのか。

○副委員長：少しずつ絞り込まなければならないから20%程減額した方がよいのではないか。

○委員長：市単独事業については厳しいお願いをしていかなければならない。

(縮小)

(65番沿岸漁業振興特別対策事業費補助金)

(継続)

(66番農業土木事業補助金)

○委員長：農家負担の軽減というのは補助率を上げるということか。

○総務課長：住民から要望があるので補助率が適正かどうかを見直してはどうかと。作りにくい田畑は耕作放棄地に繋がるので、補助で改良し、田畑の維持に繋がれば。縮小にしろ、拡大にしろ、一度担当課で現状を調査した方がよい。

○委員長：戸数が減っているから補修しようとする場合にも、一軒の負担が大きくなる。その辺も含めて担当課が現状調査をして計画的にやらなければいけない。

(内容見直し)

○委員：色々な補助金があるが、ダブって出しているものはないのか。

○委員長：ダブル補助はないでしょうが、制度として似通ったものがありますね。最後に意見として出すことができる。同じような補助金は交付要綱等整理して、、、

○総務課長：大きい農家には国の補助等が適用できるが、小さい農家にはなかなかない。

○委員長：それで市単独になっているわけか。

○総務課係長：集落営農組合には国や県の補助があったり、新規就農者には色々な事業がある。

（67番福祉ホーム支援事業補助金）

（継続）

（68番社会参加促進事業補助金（身体障がい者自動車改造事業））

（69番社会参加促進事業補助金（障がい者自動車運転免許取得助成事業））

（継続）

（70番老人クラブ活動等社会活動促進事業補助金）

○委員長・副委員長・委員：市内で交付基準に差があるのはおかしい。

（内容見直し）

（71番社会福祉協議会補助金）

（継続）

（72番民生委員活動費補助金）

（継続）

（73番身体障がい者福祉協会補助金）

○総務課長：独立した団体であるにもかかわらず、市職員がかなり運営の補助をしている。

（内容見直し）

(74番在宅高齢者住宅改造助成事業補助金)

(75番在宅重度障がい者住宅改造助成事業補助金)

(継続)

(76番障がい者体育大会交付金)

○委員長：他市の状況を調査し、見直すこと。

(内容見直し)

(77番健康づくり・軽スポーツ補助金)

(継続)

(78番食生活改善推進協議会補助金)

○委員長：これは非常にたくさん活動が記載されている。たったこれだけの補助金でよくこんなにできるものだ。ほとんどボランティアだ。

(継続)

(79番社会福祉法人等利用者減免事業補助金)

(継続)

(80番病院会計補助金)

○委員：この補助金の妥当性がよく分からない。普通の企業だったら自分たちでちゃんとやるべきものだ。もちろん市として持たないといけない不採算部門があるのはわかる。そういうものに充てているならいいが、毎年このように大きな金額を出すというのは病院としては甘えているのではないか。市の財政も厳しいのなら、もっと大きな目標をつくり自分たちで生きていける道を探してくださいというぐらい言っているのではないか。どこの病院も苦しみながらやっているのにこれだけ手厚くする必要があるのか。

○委員長：ここは合併前に山香町から引き継いだもので、地域に病院がなかったから行政が病院を設置せざるを得なかったのではないか。他に国東市、中津市、竹田市も持っている。医療過疎地域においてこういうものが要望によって設置されている。しかし、おっし

やるようにこういう時代だから考えていかなければいけない。

○委員：ただ単に継続というだけでなく、高度医療などの不採算だがやらざるを得ないものはいいとしても、、

○総務課長：ここに書いてあるように補助対象額は交付税措置相当額を計上ということで、こういう事業をするために交付税がくるとい算定を基にしているので必ずしも全部単費というわけではない。過疎地域の中で、どういった医療を確保するかということではなかなか山香病院を民間には、、民間になると経営だけで行ってしまうのでそこら辺が公立病院の意義というところもあり、なかなか赤字だからといって、、

○委員長：そのことについては所属長意見にもある。市立病院を核とする地域包括ケアシステムの構築に向け医療整備の拡充が必要である。病院の自立に向けた努力が必要であるが、過去の経緯もあり地方公営企業法に基づく補助金であり、事業を継続していきたいと。

○副委員長：県病も赤字だった。本体と三重、今は豊後大野にある病院と二つあったが三重の方が悪くてそちらを閉鎖して緒方町立病院という形になった。当時県病の財政状態も悪かったが、色々外部の目が入りだして、そういう中で周産期医療や紹介がないとだめ等、緊急性のある病院ということや高度医療などを始めた。そうすると県の繰出金が少なくなった。ということで内容的には非常によくなった。

○委員長：単年度黒字になってないか。

○副委員長：ほとんどそうだ。杵築の病院を見ると、人が辞めたり色々な絡みで、大分大学の協力を得てかなり立て直しが入ってきた。25年度と26年度を比べてみると実は収益がかなり上がってきている。これだけの赤字と言うのは、公営企業法の改正があり、今までの企業債を損失処理して、7億円くらいだが特別な損失があっ

た。それで大きな赤字になっているが内容的には良くなっているというのが見てとれる。病床の稼働率が93～94%だが、これが96～97%になると内容が全く変わってくる。だからそこまで高めるように皆さんの気持ちを持っていくことと、やっぱり盛り上げるなら地域で盛り上げないといけない。ということが一つと、あと経営改革のために院長と病院管理者と、色々な内容を確認してどうだこうだというやりとりをして、経営改革を進めていかないとうまくいかない。

○総務課長：今、運営委員会というのを設置している。議会と市が入った運営委員会。

○副委員長：専門家ではないでしょう。どこをどうしたら利益がでるか等分らないでしょう。だからそこに問題点がある。1億7000万円という繰出金を減らしたければ経営改革を促すように病院をもっていかなければならない。そこに課題があるのではないかと思う。

○総務課長：先ほど副委員長が言ったように院長が交代した時に一気に利益が下がって、今ちょうど立て直しをしており、病床の稼働率も今は96～97%まで回復してきた。民間出身の院長なので民間でやってきたことを取り入れており、道半ばというか改革の最中だ。収益をあげるためには病床をどうしたらいいのか等そこらへんの改革を今やっているところだ。

○委員長：それだけのフォローがあれば継続にして、次年度以降もまたチェックということにするか。これは市長がかなり力を入れてご苦労されたんですよね。継続でよいか。

○副委員長：いや、継続ではあるけれども、内容の見直しと、引き続き経営努力をお願いしたい。

○委員：私もそれがいいと思う。むしろ更なる経営努力をお願いしたいくらいだ。どう見ても補助金が増える基調だ。市民感覚からす

ればなんでもうちちょっと自分たちでがんばらないのかという気がすごくする。

○副委員長：要は、今は交通体系がこんなに便利になっているからほんとうに山香に必要なのかということ。

○委員：私もそう思う。見直してもよいのでは。

○副委員長：経営主体を民営化できないのかというところまで入れた方がいいと思う。

○委員長：一つは更なる経営努力をお願いしたい。もう一つは民営化に向けて検討をお願いしたい。と。金額が大きいから財政に及ぼす影響は大きい。

○総務課長：病院本体の老朽化が進んでいるという問題もある。

○副委員長：あそこに立て直すということはありません。

○委員長：それはありません。

○副委員長：縮小してほんとうにやるのか、それともやめるのか、どちらかだ。

○委員長：国東半島の中核は国東市民病院がある。ここだったら高速道路に乗っていけば別府まですぐだ。別府は医療施設が整っているからあれだけのものが必要かどうか。

○副委員長：老朽化に伴う今後の検討というのも入れてはどうか。

○委員長：先ほど言ったように交通体系が昔と違って整備されているので別府まですぐだ。ここで全てを揃える必要はないのでは。継続ではあるが、更なる経営努力、民営化に向けての検討、老朽化に伴う今後の検討も必要。ということでよいか。

（継続）

（81番一時保育促進事業補助金）

（継続）

（82番延長保育促進事業補助金）

（継続）

(83番母親クラブ育成事業運営費補助金)

(継続)

(84番保育所地域活動事業補助金)

(継続)

(85番ホームスタート事業補助金)

(継続)

(86番こども園短時間利用児童補助金)

(廃止)

(87番母子寡婦福祉会補助金)

(継続)

(88番障がい児保育促進対策事業交付金)

(継続)

(89番ふるさとまつり実施補助金)

(90番山香夏まつり補助金)

(91番横岳夏まつり補助金)

○委員長：山香のふるさとまつりは助成率がほぼ 100%。

○副委員長：こういうのは順番に今回は山香、今回は大田、今回は杵築でやるという風にはできないものか。必ずやらなければならないと言ったら10も20も市町村が合併したら全部やらなければならないなくなる。

○総務課長：それで、合併した当時どうするかということで話をし、中止と言うことで予算をつけなかったら地元から大変な反対があった。

○副委員長：だから、中止ではなく巡回開催。持ち回りでやれば、1/3 の予算とまではいかないかもしれないが、1/2 くらいになるのではないか。

○総務課長：そういう話で進めてやりかけたがダメだった。

○委員長：ふるさとまつりは助成率がほぼ 100%。山香夏祭りが

2/3 くらい。横岳の夏祭りもほぼ 100%。助成率が 100/%のお祭りが 2 つも 3 つもある。

○副委員長：ありえない。具体的に見直しの方法を提示した方がよい。

○委員長：巡回開催等も含めて、、、

○副委員長：縮小でしょう。巡回開催を前提に縮小でいいのでは。

○委員長：とにかくお金がないから。破産しようかという時。

○副委員長：やりたいと言ってもいずれやれなくなる。

○委員：どうしてもやるなら民間主催でやればよい。

○委員長：今の時代、行政が 100% 補助のお祭りなどありえない。よほど人が集まり、地域にお金落ちて、それ以上の波及効果があるならばありえるかもしれないが、通常ありえない。

（縮小）

（92 番どぶろく祭りイベント補助金）

○総務課係長：どぶろく祭りに合わせて、隣で開催している鬚自慢コンテスト。どぶろく祭り自体は地域でやっている。

○委員長：鬚自慢コンテスト、しなきゃいけないのだろうか。白鬚神社だから？

○総務課係長：そうだ。白鬚田原神社の名前にちなんだイベント。

○委員：伝統文化ではないのか。

○総務課係長：鬚自慢のコンテスト自体の歴史はそんなに古くないが、全国から来ているようだ。

○副委員長：よそから来てどこに泊まるのか。

○総務課係長：大田には泊まっていないと思う。

○委員長：杵築には？

○副委員長：別府に泊まるのではないか。

○総務課係長：どこに泊まるのかは調べていない。

○委員長：この補助金はお祭りの本体かと思っていたがそうではな

いんですね。お祭り本体は独自でやっているのだから、コンテスト
だけなら今の時代から行くと、、、

○副委員長：お祭り自体は誰がしているのか。

○総務課係長：神社だ。

○副委員長：神社への寄付等もあるならその中でやってもらったら
どうか。

○委員長：縮小で 1/2 でどうか。

（縮小）

（前回保留にしていた他の祭りの評価）

（27番きつきお城まつり補助金説明）

○委員長：補助額は 1/2 で民間主導型に移行でよいか。

（縮小）

（29番城下町杵築散策とひいなめぐり補助金）

○委員長：これも他のものと一緒に 1/2 程度で民間主導に切りか
え。

○副委員長：本当に市としてやらなければいけないお祭りとそうで
ないお祭りがあるでしょう。

○総務課長：関係課がきちんと集まって情報を共有しないと。

○委員長：それは前にも言った。市としてお客さんを誘致するた
めのお祭りであるのか、地域だけのためのお祭りであるのか。それ
を分けて、開催時期を決めて全体的に見直すように前年度申し上げ
た。これもその一環だ。

○副委員長：だから要は巡回でやったらいいのではないか。

○委員長：お祭りは事業効果を見て全部見直すとよい。

○副委員長：順番を決めて、それぞれの地域でやる時はちゃんとや
る。そして杵築中の人を含めてみんなが行く。そういうお祭りにし
たらよいのでは。

○委員長：これも他のお祭りと一緒か。

○副委員長：お城祭りは着物を着てやるやつでしょ。あれは定番で非常に有名だ。あれはあれで継続するなら継続していいと思う。それ以外のお祭りを巡回でやったらどうか。杵築は城下町が売りじゃないですか。

○委員長：ひいなめぐりにも城下町とついているが、これはおひなさまの時期にやるのか。

○総務課長：そうだ。今は山香も含めて市内全域でやっている。他市町村でもやっているので連絡協議会を作って、相互で PR し合っている。

○副委員長：そういった特徴的なもの以外の夏祭り等を巡回でしたらどうか。それ以外の代表的なお祭りまでどうだこうだ言うつもりはまったくない。

○委員長：ひいなの評価はどうするか。

○副委員長：1/2 であとは協賛を募るのがよいのでは。

（縮小）

（前回保留にしていた補助金の評価）

（30番ど〜んと商品券事業補助金）

（縮小）

（31番杵築市観光協会補助金）

○委員：観光協会の補助金を減らしたらどのようなことになるのか。イベントが減ることになるのではないか。それは杵築市として望むことなのか。

○総務課長：誘客効果の高いものは残していつてもらいたい。

○委員：そういう仕分けがきちんとできるのか。できるならそうして見直すように言えるが。

○委員長：しかしそれはやってもらわなきゃならない。我々が言えるのは継続なら継続でかまわないが、金額も大きいので事業効果を十分確認の上経費削減に努めてもらいたい。ということだ。

○総務課長：今、大原邸などの歴史的な施設も全部観光協会に任せている。その人員の配置や運営の方法等、当初こちらが計算した通りだが、それがいいのかどうか中身も検証しなければいけない。

○委員長：そのような指定管理も含めて事業効果を十分確認して経費削減しながら、杵築市として力を入れたいものについては力を入れればよい。お客さんがたくさん来れば、入館料も入るし、近くで食事をしてもらうことも可能でしょう。

○総務課長：市は特にこの通りの活性化を都市計画の中でも図っているので、そこらへんのマッチング等、観光協会にも新たに事業を考える中で検討してもらいたい。

○委員：一度補助金を削減して、やっぱりそれは間違いだったからもう一度補助金を上げようということは簡単にできるのか。企業だったらわからなければ切られる。切ってできなかったらもう一回上げる。だがこういうこともそのようにできるのか。できるならそうすればいいと思う。

○総務課長：補助金についてはどの経費に補助金が使われているかというのも検証するので余分なところの部分の部分を切ることもできる。

○委員長：担当課でも検証するし、財政課の査定もある。二重チェックはしているでしょう。

（継続）

（32番杵築市商工会補助金）

○委員長：決算額6800万円の内、1000万円を引当金にしている。これはちょっと大きい。それに繰越金が100万円ある。

○副委員長：ここは会費をとっているのか。

○委員長：会費をとっている。市の補助金が1200万円。

○副委員長：市の補助金が少し減ってもやっていけそうだ。

○委員長：今回は一応継続にしておいて内容精査の上、経費節減に努めてもらうか。とりあえず今回は。

○総務課長：行革委員会の中で、毎年引当金が多く、繰越もあるといった意見があるというのは予算査定の時に担当課に伝えたい。

（継続）

（93番農地再生経費支援補助金）

（継続）

（94番文化奨励金）

（統合）

（95番生徒遠距離通学費補助金）

○副委員長：自転車通学に1万円出すのは何か意味があるのか。

○委員長：1万円あれば自転車を買える。おそらくバス通学には定期代が出るのに自転車じゃ出ないのは不平等だという話になったのだろう。そういう話が出そうだ。

○副委員長：昔はどんな田舎に住んでいても自転車で行くからと言ってそんなものは出なかったが。

○委員長：一部補助を全額補助に改正している。教育の機会均等という観点からは分からなくもないが、市のお金がなくなれば出せなくなる。でも義務教育だから。

○副委員長：自転車で行くと足が強くなっていいぐらいだと思うが。補助金が出るというのがよく分からない。

○委員長：1/2 というのが妥当なところだと思うが。全額というのはちょっとどうかと思う。

○副委員長：バス通学も含めて1/2 にしてはどうか。

○委員長：もらっていた人からは文句が出そうだ。なぜ全額にしてしまったのか。

○副委員長：考えられない。

○委員長：中学校の統廃合等が絡んでいるのか。スクールバスを出しているところがあるのか。

○総務課係長：宗近中学校と杵築中学校にはスクールバスはないが

山香中学校は統合した関係でスクールバスがある。山香の3つの中学校と大田の中学校も1年遅れて統合した。山香中学校の子はスクールバスで行けるが、杵築中学校と宗近中学校の子は定期がいる。

○委員長：逆でしょう。定期を1/2にして山香のスクールバスの料金をとるべきではないか。

○副委員長：それでいいと思う。

○委員長：縮小で1/2、山香中学校のスクールバスを一部費用負担。

○委員：ちなみに小学生はどうなっているのか。遠い人もいる。

○総務課長：小学生への補助はない。

○委員：学校まで遠くて保護者が車で連れて行っている人もいる。だから、小学生がないのに中学生があるというのも不思議だと思って。

○副委員長：中学生は大体部活があるから夕方遅くなることが多い。

○委員：それはある。しかし、そういう斟酌よりも小学生がないなら中学生もなしでよいのでは。

○委員長：ただ、今山香中学校にはバスがあるからそれを廃止というわけにはいかない。

○委員：それはさっきおっしゃったように全額バス代を負担してもらってよいのでは。

○委員長：小学校の実態を調べることと、縮小で、半額負担でよいのか。

○総務課長：ただ山香中学校のスクールバスは統合の条件だったので。

○委員：逆に杵築もスクールバスにするとそっちの方が高くつくのか。

○総務課長：それはその方がずっと高い。

○委員：それならなぜ山香はスクールバスを出しているのか。

○総務課係長：生徒が少なくなり中学校を統合したが、その時にスクールバスを出すことを条件にしている。中学校を3つもつよりスクールバスを出す方が。

○委員長：そのスクールバスがあるから山香中だけスクールバスがあり、他はないということになる。そうであれば 1/2 というのが委員会の意見としては妥当だ。小学校の実態調査はもうよいか。

○総務課長：来年小学校が3校統合され、スクールバスが出ることになる。

○委員：それならやはり調べた方がよい。

○委員長：ただ統合が絡んでいないのにあえてバスを出すということにはならないでしょう。

○委員：でもこの補助金は統合していない杵築の中学校に出している。杵築の人で、遠距離で保護者が送り迎えしているとしたら同じではないか。

○委員長：それは小学校ですね。中学校の評価としてはこれでよい。

○委員：それはよいが、小学生は山香はスクールバスが出るのに杵築は依然として出ないというのは不公平だ。

○総務課長：山香は定期券の補助をしようと思ってもバス路線がないので定期が買えない。というよりも普通のバスに乗って通うということができない。

○委員：それはさっきから言っているように杵築だってあるはずだ。

○委員長：それでは片道6km以上の遠距離通学生がいるのかどうか、調べてもらいますか。

○副委員長：杵築もいずれ統廃合の問題が出るだろう。

○委員長：では 1/2 補助で縮小。小学生の実態も調べてみる。山香

中の一部費用負担はできないだろう。

(縮小)

(96番地産地消まるごと杵築の日実施事業補助金)

(継続)

(97番私学振興費補助金)

(廃止)

(98番私立幼稚園就園奨励費補助金)

(継続)

(99番奨学金(中学校))

○委員長：特定目的でもらった寄付金でまかなっているなので財源がなくなったらこの制度は終わりということですね。

(継続)

(100番中学校体育連盟補助金)

(継続)

(101番教育研究協議会補助金)

(継続)

(102番人権教育研究会補助金)

(継続)

(103番総合的学習事業交付金(小学校))

(継続)

(104番総合的学習事業交付金(中学校))

(継続)

(105番大分っ子体力向上推進事業交付金(小学校))

(継続)

(106番大分っ子体力向上推進事業交付金(中学校))

(継続)

(107番PTA連合会補助金)

(継続)

(108 番子ども会育成連絡協議会補助金 (杵築地域))

(継続)

(109 番杵築市地域婦人団体連合会補助金)

(継続)

(110 番区公民館改修補助金)

(継続)

(111 番青少年健全育成協議会交付金)

○委員長：交付金の配分方法を改正したということでは。

(継続)

(112 番城下町健康歩行ラリー交付金)

○委員長：主な経費の一部に、参加賞とタオル、ジュースがあるが必要か？

○副委員長：お茶は必要だとしても、タオルぐらい自分で持つてくるだろう。

○委員長：1/2 くらいにできないか。ちょっと助成率が高い。

○総務課長：市内を散策してもらう健康と観光を両立するイベントだが、市の職員がほとんどやっているので商工会青年部等民間を中心とした方向でいけたら。

(内容見直し)

(113 番区公民館文化祭交付金)

(継続)

(114 番成人式実行委員会交付金)

(継続)

(115 番いきいき通学合宿実施交付金)

(廃止)

(116 番スポーツ奨励金)

(統合)

(117 番体育協会補助金)

(継続)

(118 番歴史的遺産保存事業補助金)

(継続)

(119 番指定文化財補修補助金)

(継続)

○委員：118 番と 119 番は一緒にできないのか。

○委員長：たぶん歴史的遺産と指定文化財に対するものということで違うのだろう。

(120 番小武寺所蔵木造俱利伽羅竜剣修理費補助金)

(継続)

(121 番文化体育館イベント実行委員会交付金)

(継続)

(122 番ツール・ド・国東大会交付金)

(縮小)

(123 番杵築市柔道連盟小中柔道練成大会交付金)

(124 番県下少年剣道練成大会交付金)

(128 番城下町きつき新春卓球大会交付金)

(129 番市長杯弓道大会交付金)

(130 番陸上記録会交付金)

(131 番市民ゲートボール大会交付金)

(133 番山香地域ミニバレーボール大会実施交付金)

○委員長：これは、なぜ柔道にはあって〇〇にはないのかという問題がよく今まで起こらなかったものだ。これは全部他スポーツとの整合性を図り、段階的に縮小でよいか。

(縮小)

(125 番大田地域スポーツ大会交付金)

○総務課長：大田は自治協が一つなのでその中でやってもらえれば。他の自治協ではスポーツ行事を取り組んでいるところもあるの

で。

（統合）

（ 126 番スポーツ少年団育成費交付金）

（継続）

（ 127 番春のイベント実行委員会交付金）

○委員長：他のイベントと同じですね。

○副委員長：マラソン大会はこれだけか。

○総務課長：市外からも集まるのはこれだけだ。

（内容見直し）

（ 132 番総合型地域スポーツクラブ育成推進事業交付金）

○委員長：事業費に対して人件費の占める割合が大きい。totoの助成金は26年度で終わり、それから3年間totoに代わって市が交付金を出す。3年後に向けて自主財源の確保と自主運営に向けてがんばるように所属長は言っている。

○委員：27年度から3年間でソフトランディングするということか。本来totoが26年度で終わるということは分かっていた話だからそれまでに自主運営できるようにしなければならなかった。これでまた3年補助を出したらまたもう3年となるのでは。

○副委員長：そこで終わりにすればよかった。27年度から3年計画で補助金を交付するというのは決定しているのか。

○総務課長：予算は毎年前年度につくるが、OKY（総合型地域スポーツクラブ）とは3年間で自主運営を目指すという話をしている。

○委員長：3年後に自主運営するように言うしかしょうがない。

○総務課長：事業の中身も今までやっていたからやるというのではなく、参加人数や必要性をちゃんと検証してやらなければならない。

（内容見直し）

○委員：一ついいか。先ほどの133番の山香地域ミニバレーボール大会実施交付金。125番と同じように、住民自治協議会での事業として検討することはできないのか。

○総務課長：大田は1つの自治協だが、山香は6地区に分かれている。なかなか全部の自治協が集まってというのは難しい。

○委員長：補助金は一応これで終了。

○総務課係長：次回の会議までの間に皆さんから頂いた意見を二次評価の欄に記載したものをお送りする。違うのではないか等、違和感のある個所があれば修正作業をする。

○委員長：今回はアクションプラン。